

熊本県立天草高等学校(全日制) 平成28年度学校評価表

1 学校教育目標
「平成28年度県立学校における教育指導の重点」及び「平成28年度人権教育取組の方向」を基盤に据え、本校の三綱領「正大・剛健・寛厚」及び教育スローガン「求学志成」のもと、個性豊かな人材の育成と規律ある活気溢れる学校づくりを目指し、次の4項目を目標とする。

2 本年度の重点目標
(1) 自主的精神を高め、自らを律する態度を養い、一人一人の進路目標達成に応じた学力向上を図るとともに、生徒自ら問題を解決する力の育成に努める。
(2) 基本的生活習慣の確立と安全教育の徹底を図り、豊かな人間性の育成に努める。
(3) 心身の健康、体力の向上を図るとともに、創造性や感性を育む体験活動の推進に努める。
(4) 地域の拠点校として、地域に開かれた学校づくりに努め、地域、保護者、生徒の信頼と期待に応える教育活動を進める。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学 校 経 営	開かれた学校づくり	公開授業の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「教育の日」及び土曜日を活用して、保護者や地域の方々に、授業や発表会などを積極的に公開する。 近隣の小・中学校、また県内の高校にも案内し、連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 教務部が立案し、年間2回以上の公開授業等を実施する。 教務部が立案し、体験入学を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【○】公開授業に関しては、6月と11月に各2週間ずつ実施できた。1学期は、学年保護者会も期間中に実施され、多くの保護者の参観もあった。 【○】体験入学は7月25日(月)に実施し、中学生359人、引率職員16人、保護者49人の参加があった。昨年度より保護者の参加者は70人ほど減少したが、中学生の参加は14人ほど増加している。
		広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPの更新・充実を図る。 生徒の活動の様子を、学区内中学生や地域の方々に積極的に情報発信する。 中学校を訪問して、学校紹介を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報図書部が立案し、学校HPの更新頻度を高める。 情報図書部が中心となり、学校紹介DVDを作成し、広報に用いる。 アンケートを実施し、広報活動に反映させる 		<ul style="list-style-type: none"> 【○】2・3日に1度はHPを更新し、昨年度より学校のできごとをタイムリーに数多く発信することができた。 【○】学校紹介パンフレットは120周年用に一新し、各所で好評であった。 【△】独自のアンケートは実施できなかったが天草ケーブルテレビ、RKK、KAB、熊日などに取り上げられる機会も多く、その都度HPで取り上げ、アピールすることができた。 [対策]地域住民や中学生のニーズの把握に向けた具体的方策を早期に検討し実施する。
		学校評議員会の充実	<ul style="list-style-type: none"> 年間2回の学校評議員会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教頭が立案し、年間2回実施する。 地域の方々に本校の教育活動を紹介し有意義な意見交換が出来る環境を整える。 		<ul style="list-style-type: none"> 【○】年間2回実施することができた。 【○】より充実した意見交換を行うために、事前に学校評議員へ資料を郵送し、本校の状況を十分に踏まえたうえで会合に参加していただけるよう配慮した。
		育友会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 育友会総会や学年別保護者懇談会の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 総務部及び各学年が立案し学校全体で取り組む。 メール配信サービス加入率を向上させ、積極的に学校行事への参加を促す。 		<ul style="list-style-type: none"> 【○】育友会総会並びに学年保護者会が各部署の協力でスムーズに開催できた。 【○】あいさつ運動等メール配信での呼びかけに応じ協力者数が増えた。登録者増によるものと思われる。
安全管理の取組	不祥事防止	<ul style="list-style-type: none"> 不祥事防止に関する啓発活動を行う。 情報管理を徹底する。 不祥事防止に向け主体的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 不祥事ゼロ委員会が中心となり、職員研修を毎月実施する。 ロッカー及び机の引き出しの施錠を行う。 文書セキュアの活用やUSB管理状況把握により、情報の管理を徹底する。 毎月、全職員でセルフチェックを行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【○】職員研修として毎月実施した。年度当初に設定したテーマを基に、教科書採択に関わる内容等を必要に応じ追加し、全日、定時、倉岳校で役割を分担し進めることができた。 【○】適切に施錠と鍵の管理がなされている。今後は机上の文書整理を推進し、文書管理意識を昂揚していきたい。 【○】文書セキュア上のデータ共有、USBの貸し出し管理は滞りなく行われている。 【○】チェック状況と記入欄の記述内容を把握し、管理職で共有することで、職員の状況把握に奏効した。 	
教育環境の整備	学習環境の拡充	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主的な学習環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 3学年部が企画し、土日祝日に学校を開放する。 		A	<ul style="list-style-type: none"> 【○】受験指導が本格化する6月から担当者を決め計画的に実施した。1日50～70名の3年生が活用していた。定期考査前には1・2年生も活用できるように大きく開放した。自学できる意識や力を付けることが目的で

						あり、より良い学習環境を求めて行動できる力を育てることに有効な取り組みといえる。
	学校改革	校務改革	<ul style="list-style-type: none"> 校務の再点検を行い、改善点を見出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校改革プロジェクト支援事業」を参考に問題点を明確にし、校務の改善へ繋げる。 		<p>【△】超過勤務の減少が見られない。 〔対策〕主たる原因である教科指導と部活動指導について、効率化による負担軽減を推進する。</p> <p>【○】超過勤務の現状を校務運営委員会で共有することで、今後の課題へ一歩踏み込むことができた。</p>
		授業改革	<ul style="list-style-type: none"> 各職員が授業を改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> スーパーティーチャー（指導教諭）が職員の授業を参観し、様々なアドバイスをを行う。 授業改善のノウハウを獲得するために、スーパーティーチャーの授業を参観する機会を職員に提供する。 2学期末に授業に関する調査を行い、改善状況を把握する。 	B	<p>【○】公開授業期間を活用し、多くの先生方がスーパーティーチャーの授業を参観できたようだ。また、各教科でもスーパーティーチャーによる参観授業も行われ、各自の授業改善に努められていた。</p> <p>【○】2学期末に本年度2回目の授業改善アンケートを実施した。どの先生方も1学期の結果を受け、改善されており、評価も挙がっている。</p>
学 力 向 上	学力の充実	家庭学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 予習の徹底と天高チャレンジ1500min(1週間の学習時間)の家庭学習を保させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間2回の宅習時間調査を行い、学年ごとに対策を講じる。 保護者に結果を知らせる。 		<p>【△】6月と10月の2回実施をした。結果は例年と変わらず目標値週1500分を達成できた生徒の増加は見られなかった。 〔対策〕生徒の時間の活用指導とともに、学校生活の時間見直しを考える。</p> <p>【○】3学年としては、平日5時間、休日10時間をキーワードに日々の家庭学習時間調査を実施し学習バランスのコントロールを担当が行った。</p> <p>【○】年間2回の宅習時間調査以外に、月行事を載せた毎日の宅習時間調査を行い、担任からのコメントを添え、各生徒の宅習状況の把握に努めた。また、手帳との両立を図るため宅習課題のメモをその日の終礼時に記入し、計画的に学習を進める手立てとした。</p>
		3年間を見通した指導計画	<ul style="list-style-type: none"> 授業担当者会を実施し計画的な学習を進める。 生徒の実態を把握して計画の改善を随時行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に授業担当者会を学年ごとに実施し進捗状況の確認と意見交換を行う。 学期末に教科書の進捗状況を調査する。 学期ごとの考査・模試、各種調査、授業評価に基づいて検討する。 	A	<p>【○】年度当初に各学年、授業担当者会を実施した。本年度は1年間の計画とともに、支援を必要とする生徒の共通理解を図ることもできた。</p> <p>【○】3学年では、4月と9月に授業担当者会を開催した。9月は生徒の成績推移などを交えながら授業進捗の確認ができたので有効であった。</p> <p>【○】8月に第1回学力検討会2月に模試結果を参考に第2回学力検討会を行った。学年でたくさんの共有ができ生徒の意識付けができた。</p> <p>【○】4月の授業担当者会でシラバス検討を行い、7月に中間確認を実施した。また、定期考査や模試ごとの成績についての検討会を実施し、修正を含めた進捗状況の確認を実施した。</p>
		習熟度別学習の実施	<ul style="list-style-type: none"> 国数英それぞれ学習到達度に応じた学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとに到達度を確認しクラス替えを行う。 		<p>【○】習熟度別にクラスを展開している教科では、定期考査・模試等の結果を受け、定期的にクラスを編成している。効果的に授業が展開できている。</p>
	教員の指導力の向上	学習指導法等の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> 教科で年間2回以上の研究授業を行う 教材研究の質の向上を図る。 作問力の向上を図る。 分析力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で短期・中期・長期的なテーマを掲げ授業に臨む。 教科内・教科間を超えて切磋琢磨しながら授業力の向上を図る。 授業に入る前の検討会を実施する。 生徒には、具体的にどう努力すべきかを明確に提示する。 定期的に、教科会で検討する。 熊大・九大+1（東大）の問題を4月第2週までに解答する。 	B	<p>【○】公開授業期間では活発に他教科・他学年の授業参観ができています。各自の授業改善に寄与できている。</p> <p>【○】昨年よりも各教科の研究授業の実施が増加した。授業研究会に他教科の先生方も参加できるような時間の余裕があればと思う。</p> <p>【△】授業に入る前の検討会については、教科により状況に差がある。</p> <p>〔対策〕教科の特性に応じた打合せ形態により実施する。</p> <p>【○】生徒一人ひとりに対して具体的・明確な提示ができています。</p> <p>【○】教科会が定期的に開催さら、質の向上が図られている。</p> <p>【△】入試問題の解答については、担当学年や教科により状況に差がある。</p>

				<ul style="list-style-type: none"> 定期考査問題の教科内での検討会を意欲的に行う。 現状を多角的かつ的確に把握し適切な対応を行う。 	<p>[対策] 担当学年や教科の状況に応じ、教科で研鑽方法を検討し実施する。</p> <p>【○】 考査問題検討は意欲的に行われている</p> <p>【△】 現状把握に努め、丁寧に対応が行われている。</p> <p>[対策] 生徒の家庭学習状況等を精査し、適切な学習課題を準備する。</p>
キャリア教育・進路指導	3か年の一貫した指導のもとでの進路目標の達成	第一志望現役合格の達成	<ul style="list-style-type: none"> 3年次の希望進路100%達成を目指す。 難関大学合格10人以上を含め、現役による国立大学合格90人以上を目指す。 1・2年生、国・数・英で7・11月模試の偏差値50以上、1月偏差値52を目指す。 3年生の全科目において毎回の模試で偏差値50以上の度数が前年度を上回ることを目指す。 センター試験の得点が全科目全国平均点以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生では進路検討会を5回以上行い、担任が生徒にアドバイスを行う。 模試分析会を4回以上行う。 確認考査・単元テストなどの小テストを行い、受験基礎力を養成する。 3年生総体総文後、二者面談や教科面談を行う。 9・11月のマーク模試において定点観測を行う。 小論文対策の早期化と継続を図る。また、天高100冊の選定を行う。 推薦・AO入試対策として専門分野の強化を図る。 	<p>【○】 進路検討会は、合計5回の実施できた。目的・資料・内容の充実も図られた。一人にかかる時間の確保が課題である。</p> <p>【△】 3年の模試分析会は、回数が多さに対応しきれていない。教科任せになっている。</p> <p>[対策] コピーをとり、採点に取り組む教科もある。各教科でこの取組を共有する。</p> <p>【○】 2年生は2回、1年生も1回実施でき、年間計画にも予定し、良かった。</p> <p>【△】 数学・英語とも、習熟度や分野別の特別講義を実施し、学力の定着向上に努力した。受験学力の定着に向けた指導力の向上が望まれる。</p> <p>[対策] 経験を積んだ職員が積極的にリードし職員の経験不足を補う。</p> <p>【○】 推薦・AO入試対策は、2年次の天草起業塾に多くの生徒を参加させるなど、大学の公開講座にも参加するように促している。</p> <p>【△】 小論文対策については、総合的な学習の時間で取り組んではいるものの、文章表現力の低下が大きな課題であり、細やかな指導が必要な場面を多く見かけた。</p> <p>[対策] 1年次から、レベルの高い結果を求める取組を行う。</p>
		総合的な学習の時間の活用	<ul style="list-style-type: none"> 自己の進路についての意識を高めさせる。 知の注入とともに自分の考えを表現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年間の計画に基づき面談等で生徒の状況を確認しながら実施する。 討論会や調査内容の発表等の場を設ける。 インターンシップおよびキャリア教育を推進する。 	<p>【△】 3学年では、進路研究に特化した内容のみを取り扱った。</p> <p>[対策] 指導方法の効率化と内容の見直しを行い、自己表現力を培う機会を設定する。</p> <p>【○】 文理選択の進路講演会を6月に実施し、夏休みの活用について積極的に働きかけ、インターンシップや天草島起業塾など、校外での活動に多数参加した。</p> <p>【○】 1・2年生には手帳を持たせ、講演会の内容等を書き留める取組を行った。この習慣は将来の生活に是非とも必要なことであり、限られた時間を有効に活用する意識が、少しずつ定着していくことを望む。また、手帳については、振り返りだけでなく、家庭学習期間が増える3月から春休みの時期の学習計画にも利用できるよう学年で計画している。</p> <p>【○】 4月に立てた計画に従って、おおむね順調に進んできた。生徒の将来のことを考えさせるために、おもに本校卒業生の講師を招いたキャリア教育をさらに進めていく。</p>
	多様化する生徒の個々の進路目標への対応	進路意識の高揚・啓発	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、年間20回程度の進路情報を提供する。 各学年の進路講演会、大学出張講義、予備校や大学によるガイダンス、キャリア教育講演会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路の手引き「求学志成」と、「進路ニュース」を作成する。 学年ごとに、時期・段階と生徒のニーズにあった内容で講演会を実施する。 受験形態を熟知し、生徒の個性にあった進学指導を実践する。 	<p>【○】 8月の大学AO入試と9月の公務員試験から、常に3学年の誰かが受験をしている状況となるため、それぞれに合わせた声掛けと進路指導を実施しなければならない。</p> <p>【○】 5月の育友会総会時に、雛峰プランを明示し、進路研究と文理選択の重要性を説明し6月、及び9月の文理選択についての進路講演会への参加を呼び掛け、多数の保護者の参加をいただき、生徒と保護者の進路指導に対する理解を深める機会とした。</p> <p>【○】 進路の手引き「求学志成」は、予定通りのものを作成することができた。今後はこの活用をLHRに組み込んでいきたい。</p> <p>【△】 「進路ニュース」については、発行部数は、減少傾向にある。</p> <p>[対策] ホームページへの情報掲載等、情報発信の在り方について検討する。</p> <p>【△】 受験形態は年々複雑となり、全体の把握は厳しい。その都度、チェック機能を十分に働かせる必要がある。</p> <p>[対策] 現状や今後の動向を踏まえ、現在のチ</p>

		進路希望に応じた個人指導	<ul style="list-style-type: none"> ・担任による二者面談を実施する。 ・教師が教科指導力を高いレベルで養い、如何なる大学進学に対しても積極的指導を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期に2回以上は、担任が二者面談を行う。 ・進路指導部が大学や入試などの情報を積極的に提供する。 	<p>エックの仕組みを評価し、改善を図る。</p> <p>【○】各種講演会については、優れた講師陣で有意義であった。</p> <p>【○】3学年では年間7～10回の二者面談を各クラス担任が実施できた。進学に対するアドバイスや学習の進捗状況、悩み相談など時期に応じた細かな指導が実践できた。</p> <p>【○】3者面談を入れると年間4回の面談が各クラス実施できた。大学調べや職業観そして受験（学習面）の指導ができてきた。</p> <p>【○】学期2～3回を目標に、定期的に面談を行い、学年会での情報共有を行った。担任だけでなく学年全体での対応もスムーズにできた。</p>
生徒指導	自律心の育成	生徒会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月生徒朝会を実施する。 ・年間3回以上委員会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営を生徒に任せる。 ・職員が指導助言にあたる。 	<p>【○】生徒会を中心に、年間を通して挨拶運動や生徒朝礼に取り組むことができた。挨拶運動は、生徒会執行部だけでなく、育友会役員の方々も参加された。</p> <p>【○】生徒一斉委員会を毎月実施し、活動を活性化することができた。</p>
		部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・加入率90%以上を目指す。 ・集中力を高め技能を向上させ上位入賞を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で加入を推奨し、勉強との両立を図るための指導を行う。 ・短時間で高い効果を生む練習の工夫を行う。 	
	ボランティア精神の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動参加率60%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部のボランティアと連携し、生徒集会等で積極的に参加を促す。 	<p>B</p> <p>【△】ボランティア活動については、上級生になるにつれて参加が多くなってきている。</p> <p>[対策] 年間計画を作成し生徒が計画的に参加できるようにしたい。また、部活動や学年やクラスによる奉仕活動等を定期的に入れていきたい。</p>	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	交通モラルとマナーの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・年間5回以上の登下校指導を行い、交通違反0を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査前の指導は全職員で行う。校外指導も行う。 	<p>B</p> <p>【○】登校指導を全職員で5回実施できた。また、他校との連携も関連さし、原付バイク通学生の登校指導を天草（本渡）地域全域で実施できた。</p> <p>【○】外部講師を招いての講演会や、文化祭等での展示指導を行い、交通事故に対する知識や理解を深めることができた。</p>
		規範意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・年間5回以上の服装検査・再検査を行い服装違反をなくす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに行い、ルール遵守の意義を説明する。 ・原付バイク通学生月1回の集会を行う。 	
人権教育の推進	命を大切にすることを育む指導	いじめの根絶	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態を把握し、迅速な対応を行いいじめを根絶する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回程度いじめに関するアンケートを行う。 ・全職員が生徒情報を共有し、連携を密にする。 	<p>B</p> <p>【○】生徒の心の状態を把握するために、年3回「いじめアンケート」・「心のアンケート」を実施することができた。また、実施結果を有効に活用するとともに、各学年会で気になる生徒の状況を報告・共有し、担任と連携して個別の生徒の実情を把握して迅速な指導に当たることができた。</p> <p>【○】いじめ防止対策委員会で具体的な生徒の事例を挙げながら、外部委員（SSW）の方のアドバイスをもとに、対策を講じることができた。</p>
		命を大切にすることを育む心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・職員、生徒に「命を大切にすることを育むことの重要性について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修において、事例研修並びに班別協議会を実施する。 ・全校集会やLHRにおいて「命の大切にすることを育む」について考えさせる。 	

		教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> 年間5回以上カウンセリング委員会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状を分析し、担任に指導助言を行う。 	<p>とに目を向けることの大切さを再認識し、自他の命を尊重する心を、生徒、教師ともに育むことができた。</p> <p>【△】今年度より実施日を火曜日の7限目としたが、その時間に委員全員を招集することが難しく、カウンセリング委員会は3回の実施となった。</p> <p>〔対策〕来年度の時間割や年間行事予定を参考に委員全員が集合できる期日を設定する。</p> <p>【△】生徒の状況把握や協議を行い、協議内容は学年で生徒への支援に生かすことができた。</p> <p>【○】カウンセリングの時間が60時間に加えて年度途中で6時間追加されたことで、生徒・保護者・教職員ともに昨年度より充実した相談を行うことができた。</p> <p>【○】休学中の生徒や、学校生活への不安感から体調不良を起こしやすい生徒が、不安感を軽減し、家庭や学校での生活を維持できており、カウンセリング効果が得られた。</p> <p>【○】カウンセリングに使用する学校PCを用意し、カウンセラーが記録するための時間を確保することで、即日報告書作成が可能になった。カウンセリング後の担任へのフィードバックがスムーズに行えた。</p>
豊かな人間性の育成	読書の推進	<ul style="list-style-type: none"> 貸出数の1人当たり14冊以上を目指す。 「朝の読書」を徹底させる。 利用率の増加（貸出数0冊の生徒を減らす）を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 良書の選定と、「図書館限り」の充実及び年間10回以上の発行。 全職員、全生徒で一斉に行う。 多彩な分野の蔵書を揃え、生徒の情操や知的好奇心に訴えかける。 	<p>【○】生徒一人当たり貸出14.4冊（1/30現在）と若干減少したが県平均6.9冊を上回った。</p> <p>【○】「職員推薦新書コーナー」を新設し、多方面からの資料提供を試みた。HP・ブラックボード・昇降口を活用し。資料情報や講演会情報などを日々発信した。</p> <p>【○】授業利用は185時間（保健体育・総合的な学習の時間・国語・進路研究・英語スキット発表・新聞調べ・3年教養講座など）。また個別入試に向け毎日自学利用されている。司書教諭クラスによる「図書館終礼」も試験的に2回実施された。</p>	
	人生観・職業観の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生き方や職業に関する講演会を開催する。 芸術鑑賞会の満足度アップを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種行事とタイアップして同窓会、保護者、地域の方に講演をお願いする。 事後アンケートで満足度と次年度の鑑賞希望を調査する。 	<p>A</p> <p>【○】3学年では各種講演会に対する生徒の反応は良かった。感想も講演内容を踏まえた肯定的な感想がほとんどであった。</p> <p>【○】各講演会を受け生徒の学校生活や学習意欲が変化した。講師選択がとてよく今後も期待したい。</p> <p>【○】9月の進路講演会時に、今後の学習に向けて取り組む姿勢づくりの一環として壺浜塾から講師を招き、熱心な講演をいただいた。目標のあいまいな1年生にとっては、将来に向けた自分の思いの必要性を考えさせられる講演であった。</p>	
	道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育目標に基づき教育活動の全領域において道徳教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「人間としての在り方生き方」に関する講演会を開催する。 	<p>【○】120周年記念式典において、卒業生から生徒へ、学ぶことや働くことの意味を語っていただいた。</p>	
健康安全教育の推進	健康・安全教育の推進と環境整備の推進	健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 治療勧告生徒の受診率を向上させる。 生徒の健康状態に応じた個別指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業前や定期考査前を目処に治療勧告書を渡し、治療の必要性を呼びかける。 健康観察を徹底させ、健康状態を把握した上で個別の保健指導につなげる。 	<p>【○】歯科治療率は昨年度2/1時点31.8%から今年度36%と少し上昇した。担任、部活動顧問からの呼びかけに効果があったと思われる。</p> <p>【○】健康観察の徹底は実践できた。そこから得られる情報をもとに、担任との連携につなげることができた。</p>
	環境美化の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 時間一杯清掃し、校内美化に努める。 ごみの分別を習慣化する。 学校版環境ISO活動（エコスクール）に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画を立てて計画的に実施する。 全生徒が掃除にあたり、担当職員が率先垂範して、指導にあたる。 分別のスリム化や分別しやすい表示等の工夫により、分別の習慣化を図る。 エコスクール推進委員会、生徒生活委員会を中心に全職員・生徒で取り組む。 	<p>A</p> <p>【○】売店前のゴミの分別をシステム化でき、美化委員による清掃によって環境整備もできた。ゴミ置き場の分別が今後の課題である。</p> <p>【○】学期ごとに美化コンクールを実施した。クラスで競い合い、同率一位のクラスが多数出るなど、レベルが年々上がっており意識が向上したことがうかがえる。</p> <p>【○】毎月エコスクールチェックを行うことで節電・節水に対する意識を高めることができた。</p>	

		整備の徹底	・定期的に安全点検を行う。	・掃除用具の点検を定期的に行い、迅速に改善する。 ・安全点検を受けて、危険箇所の改善を迅速に行う。		【○】定期的に安全点検を実施することができた。危険箇所・修繕箇所については事務部へ速やかに報告し、教育活動における生徒の安全確保に努めた。
	指導体制の組織的整備	組織の実効的活用	・管理職を含む複数の教職員、専門的な知識を有する臨床心理士等による「いじめ対策拡大委員会」を実効的に活用する。	・年間指導計画の作成・実行 ・検証・修正の中核的役割を果たす。 ・情報を共有し、生徒への事実確認、保護者との連携、対応方針の決定等を組織的に行う。	A	【○】拡大対策委員会など、積極的に活動できた。 【○】学年の連携がとれあらゆることにも対応できた。
いじめの防止等	未然防止及び早期発見のための取組みの強化	いじめの防止	・互いの良さや個性が大切にされ、一人ひとりが尊重される人間関係や学校風土を構築する。	・各種の講話や講習会、LHRを有効に活用し一人ひとりの心に迫る。	A	【○】担任による個人面談を数多く実施し、少しでも心配のある生徒がいる場合は、即座に対応できる体制を整えた。 【○】担任、副担任の連携がよく学年でも日々色々なことを共有できている。
		いじめの早期発見	・「いじめはどの学校にも起こりうる」という認識に基づき積極的に対応する。	・個別面談やアンケート等を定期的実施し、積極的な実態把握に努める。		【○】生徒の心の状態を把握するために、年3回「いじめアンケート」・「心のアンケート」を実施した。また、各学年会で気になる生徒の状況を報告・共有し、担任と連携して個別の生徒の実情を把握した。
		いじめへの対応	・解決に向けて組織的に迅速な対応を行う。	・「対応マニュアル」に従い情報収集と記録確認を行い、組織的に迅速に解決する。		【○】いじめの疑いがあるものに関しても、状況を詳細に把握し、改善するために積極的に行動、連携できた。

4 学校関係者評価

2月23日に今年度2回目の学校評議員会を開催し、評議員の方々から今年度の取組及び生徒・保護者・職員へのアンケート結果等について御意見をいただいた。本校のセンター試験自己採点結果、面接指導をはじめとする具体的な進学指導方法、進学指導や生徒指導の基盤となる二者面談や進路検討会について質問が寄せられ、進路指導に関して高い関心を持っておられることを実感した。授業改革や校務改革を推進し、周囲の期待に応えていきたい。学校評価アンケートの中で、ボランティア活動の数値が低いことについて、実際の活動と乖離があるのでは、とご指摘いただいたが、様々な形での活動実績があるだけに、アンケートの調査方法の検討も必要である。天草地域の生徒数減少については心配の声が多く挙がった。「地元を愛する若者が増えている」との声が聞かれる一方で、中学では「将来天草に残りたい」という生徒ゼロであるとの報告もあった。本校生は比較的「天草に残りたい」と感じているようである。若い世代に天草の魅力を伝えると共に、天草の魅力を自分たちで発見する仕掛けを行い、地元に誇りを持たせたい。また、地元での企業を目指すような人材の育成も必要であると感じた。様々な機関と連携しながら、魅力ある学校づくりを推進していきたい。長時間勤務については、各評議員からも心配の声が寄せられた。主な原因は課外と部活動指導による時間超過である。職員が生徒に手をかけ過ぎている状況もあり、できる限りのことを生徒の自主性に委ねることで負担を軽減できると感じている。これを機に発想の転換を行い、生徒の自主性やマネジメント能力を育てていきたい。

5 総合評価

学校評価アンケート結果や評議員の方々からは、本校の教育活動について「良好である」との評価をいただいた。

生徒アンケートからは、『朝の読書』が有効であり、1学年においては、入学後に新たな習慣が加わることで、本に親しむ心情が培われている。これ以外にも、「職員推薦新書コーナー」の新設、学校ホームページへの積極的な情報掲載、生徒の日常生活の動線にボードを掲げ、資料や講演会の情報を掲示する等、生徒の情操に訴える取組が積極的になされている。本校図書館の書籍貸出数は県下随一であり、これらの取組の有効性を示している。2・3学年では二者面談についての評価が高い。学年指導として年間計画にも位置づけられているとともに、日頃からの声掛けや自主面談も度々行われるなど、進路相談だけでなく、日頃の悩み相談等にも有効に活用されている。また、「学校は、進路について丁寧に指導してくれる」の評価が高い。「進路検討会」が頻繁に行われることにより、多くの職員で個々の状況が共有され、日々の的確なアドバイスに繋がっている。また、インターンシップや大学出張講義、各種講演会により、自己の進路に対する意識が高揚している。また、講演等で得た知見を一過性のものにならないために、1・2年生には手帳を持たせ、講演内容を書き留める取組が行われており、同時にメモの習慣づけを行いながら、主体的に情報収集・管理ができる人材の育成を目指している。

保護者アンケートでは、「子どもの第一希望の進路を知っている」の評価が高い。1年生の段階から生徒の進路について概ね把握されており、全般的に関心の高さが伺える。また、学年を追うごとに評価は高まっており、特に3年生で

は、三者面談の回数も増え、家庭内での話し合いも大幅に増えていると予想される。1学年、2学年においても積極的に二者面談が行われ、生徒と職員の信頼関係は深まっている。ホームページや定期メール等で積極的に進路情報を提供し、教師からも進路の話題を家庭内で積極的に進めるよう促すことで、家庭内で子どもの進路志望について話題となり、理解もさらに深まると考えられる。

職員の自己評価については、公開授業、研究授業に関する項目の評価は高い。今年度から、本校数学科に指導教諭（スーパーティーチャー）が配属されている。本校においても自らの授業を随時公開するとともに、多くの授業を参観しながら適時効果的なアドバイスを行っている。生徒の主体的な学びを促す授業スタイルを取り入れ授業改善に着手する職員が増えており、授業改革が着実に進んでいる。また、本校の広報活動については、前述のとおり情報図書部を中心に積極的な取組がなされている。同時に、昨年度の2学期以降主幹教諭が主導し、天草市役所の記者クラブ等への「投込み」を増やすことで、本校がマスコミに取り上げられる機会が増えている。4月以降、新聞・広報誌では33件、テレビ・ラジオでは48件の採用があり、天草内外に本校の取組を発信することができた。取組が幅広く認知され、本校の活性化に繋がると期待される。

超過勤務状況については、職員全体の月平均超過勤務時間は92.3時間/月であり、職員の疲労の蓄積が心配される数値である。業務内容別では、教科指導と部活動指導が圧倒的に大きい。部活動指導については、日没が早まる11月以降、超過時間勤務は減少している。教科指導については、10月以降、特に3学年関係職員について、大学入試に向けて学務処理や教科指導が増加しており、12月では44.1時間/月となっている。特に教科指導と部活動指導については、効率化を図りながら負担軽減を推進していきたい。

6 次年度への課題・改善方策

1 課題

- (1) 地域拠点校としての魅力ある学校づくり
 - ア 本校教育内容の分かりやすい広報活動のさらなる取組
 - イ 地域に出かける実践型学習活動の推進
 - ウ 地域の人材の活用と連携
- (2) 自主性を育む教育活動の推進
 - ア 「やらされる学び」から「やる学び」へ
 - イ 生徒の自主活動、実活動の活性化
- (3) 授業改革と校務改革
 - ア 授業に打ち込める態勢を整える
 - イ 業務負担を軽減する

2 改善策

- (1) 地域拠点校としての魅力ある学校づくり
 - ア ホームページの充実・マスコミとの連携・協働
 - イ 学校設定科目「天草サイエンス」の導入
 - ウ 「天草学連続講義」による地域の人材・資源の利活用
- (2) 自主性を育む教育活動の推進
 - ア 自学の推進、
 - イ 躰きポイントの把握と授業へのフィードバック
 - イ 制限時間の明確化、生徒の自主活動、実活動の促進
- (3) 授業改革と校務改革
 - ア 協働的学習の場の保障、教材等のデータ共有
 - イ 起案文書や要項等のデータ共有と利活用
 - ウ 行事終了後の反省と次年度要項の作成